



おがさわら

# 議会だより

第 151 号



## 【本号のトピックス】

- P.2~3 決算特別委員会開催
- P.10 池田議長  
令和5年度市区町村長及び市町村  
議会議長総務大臣表彰決定
- P.12 第12回 小笠原航空路協議会開催
- P.13 議員研修レポート

etc

## 南アルプス市行政視察

【こども・子育て応援宣言の  
南アルプス市に行ってきました！】

近年、緩やかに人口が増えている南アルプス市。そこは小笠原村と友好町村です。今回、村議全員で行政視察をしてきました。土日を含む、一時保育の充実など子育て支援について沢山のヒントを頂きました。地名が小笠原ということで、学校や駐在、バス停などが小笠原でした！

(宮城ジャイアン)

## 令和5年 第3回定例会 目次

決算特別委員会	2～3
一般質問	4～9
議案審議、議長表彰	10
総務委員会・特別委員会	11～12
議員レポート	13
今後の予定、編集後記	14

## 令和4年度の決算を審査する「決算特別委員会」を開催

委員長 杉田 一男 副委員長 平野 悠介

9月定例会では、村長から提出された「令和4年度決算」の審査を行うため、決算特別委員会が開催されました。「予算の使い方は適正かつ効率的であったか？」次年度の予算編成に生かすため、審査を行いました。どのような質疑が行われたか、その一部をご紹介します。

### 【歳入（村税）】

**問** 村税(村民税・固定資産税)の過年度分(滞納繰越分)の徴収率が30%台と低い。徴収率を上げる取り組みは。(平野)

**答** 滞納者へは督促状送付、個別連絡により対応。転居者については、督促状送付にあわせ、職員上京時に訪問。また、徴収に難しい事案は、東京都主税局へ依頼し徴収に努めている。(財政課長)

### 【村有施設管理経費（奥村交流センター）】

**問** 委託費の使用用途は。(清水)

**答** 建築基準法に基づいた建設設備定期検査、消防設備点検に要する費用。(村民課長)

### 【テレビ事業費】

**問** イベント映像制作業務委託当初予算に対し、執行額が減の理由は。(清水)

**答** 本委託は、6月父母返還祭、11月大神山神社例大祭、1月父母海びらき開催時の映像制作委託である。コロナ禍で開催イベントが少なかったため。(総務課長)

### 【防災訓練】

**問** 防災訓練については、新型コロナウイルス感染症対策で未実施。災害はいかなる状況でも対応することになるので実施すべきではなかったか。(安藤)

**答** 感染症流行下においても実際の災害が起これば避難するのは当然と認識している。昨年7、8月は、村内での感染者が急増。その中で訓練実施も検討したが、実施により感染者を増やすことは村内の状況として良くないと判断し、実施を見送った。(総務課長)

### 【防災用具資機材整備費】

**問** AED更新とあるが何台更新、どこに配備されているか。(安藤)

**答** 更新台数2台。更新場所は、本庁舎ロビー、父島消防車庫。村としてのAED配備は、父島14台、母島7台。このうち24時間利用可能父島7か所、母島5か所。村ホームページに地図して村と官公署配備と合わせ案内。(総務課長)

## 令和4年度小笠原村一般会計及び特別会計歳入歳出決算を認定

決算特別委員会は、以下の点を指摘し、すべて認定すべきと議長に報告しました。

1. 厳しい財政状況の中、村所有の施設・住居・物品・車両等は、適正な管理を。
2. 公共工事に係る入札不調について対応を。
3. 未執行事業を発生させることがないように、適正な予算の作成、執行を。
4. 行政需要が増している中、職員の人材育成と定数管理も含めた効率的な施策の検討を。
5. 監査委員の決算審査意見を踏まえて、なお一層効率的な行財政運営を。

この委員会の報告を受け、本会議において採決を行い、すべて認定しました。

### 一般会計決算

歳入総額	52億6,828万1,721円
歳出総額	49億9,498万6,422円
歳入歳出差引残額	2億665万373円
執行率	89.2%

### 特別会計決算

歳入総額	11億7,787万9,632円
歳出総額	11億7,783万7,202円
歳入歳出差引残額	1万2,430円
執行率	99.9%

特別会計には、国民健康保険や簡易水道事業、浄化槽事業、介護事業など計8の特別会計があります。

#### 【診療所運営費】

**問** 決算額が令和3年度より1億円増額となったのは。(清水)

**答** 旧母島診療所撤去工事、人材派遣業務委託等による増額。(医療課長)

#### 【海洋センター管理運営事業費】

**問** ワーキングドックを活用した産卵巣調査における令和4年度費用及び実績は。(片股)

**答** 決算額は内地からの移動費として約12万円。8月に10日間実施。発見産卵巣9か所。  
(産業観光課長)

#### 【集客対策事業費】

**問** 小笠原観光局にかかる業務委託の費用対効果は。(宮城)

**答** 東京に機動性を持たせる拠点を整備したことにより、総合的な効果として今の観光客数の維持が出来ている。(村長)

#### 【住宅費】

**問** 村営住宅管理経費維持補修費どのような補修か。(安藤)

**答** 村営住宅1、2号棟のベランダ修理、ガス漏れ、給湯器交換など緊急性の高い修繕。(総務課長)

#### 【給食事業費】

**問** 補食給食について令和3年度未実施。令和4年度は実施されているが受託事業者の確保が出来たのか。(清水)

**答** 令和4年度は1学期1回。2学期2回。3学期は、受託事業者の人員体制等により未実施。継続して実施できる体制へとは至っていない。令和5年度1学期は未実施。2学期父島母島各1回実施に向け調整中。(教育課長)

## 平野悠介議員



### 島での出産について

**平野議員** 過去、村内での出産を断念することになった経緯は。

今後の産科医の常駐について村の考えは？

**医療課長** 平成14年7月に小笠原村診療所の産婦人科医が帰任後、後任が確保できず、検討委員会や村民対話集会での議論を経て、平成16年時点での島内出産を断念。負担軽減策として、産婦人科診療の充実や出産費用補助金（現出産支援金）の見直しなどを実施。その後も検討を続けたが、平成20年3月「島内出産はあきらめざるを得ない」と判断。将来、医療的リスクの低減が図れたときは再検討すること、移動負担軽減のため航空路の開設を目指す事を示した。

現時点でも島内出産を取り巻く環境は解決の兆しはなく、産科医の常駐も現実的ではない。助産師による母親の産前産後のケア、母子保健の実施、出産を控えた方々への支援策も同時に進め、ご家族の手助けとなるよう努めていく。

### 出産支援金について

**平野議員** 出産支援金は他村の制度と比べ金額面で乖離があるが村民の理解を得られるか？また、産前産後保育料等の支援の充実を。

**村民課長** 小笠原村出産支援金は、村民の妊娠及び出生をお祝いするとともに、母子保健及び村民福祉の向上と増進を図ることが目的。本村は令和4年度、村民の方からの意見をもとに3万円増額。出産は保険適用とする改正が国で検討中であり、法改

正等を参考に支給額の検討をすることは必要。

産前産後保育料は、本土保育園に第1子等を通園させる場合、保育料全体を無償化対応している。本村で入園対応できない1歳児までについては他自治体を参考に研究したい。

**平野議員** 出産支援金は、国の施策とは別に、本村が村内出産を断念したことに関しての支援として十分かという点が重要。他地域に比べて負担を強いられる事は避けるようお願いしたい。産前産後保育に関して、当村も『保育の必要性の認定基準』として妊娠を定めている。可能な限り負担の無い仕組み作りをお願いしたい。

### ベビーシッター利用支援事業について

**平野議員** 6月の定例会で提案させて頂いた、東京都ベビーシッター利用支援事業について、その後の進捗があれば伺いたい。

**村民課長** 安全な事業を実施、監督のため、行政監督的な立場や関係法令など含め実施に向けて調整中。必要な講習を受講するなど、島内で同業実施の準備をされている方もおり、次年度開始に向け検討、調整を重ねている。



## 稲垣 勇議員



### 土砂災害法の弊害について

**稲垣議員** 母島の農協の集出荷場も建て替えの時期に差しかかっているが、土砂災害防止法のレッドゾーンになっている。立地的に今の場所が効率的な場所である。何とか今の場所での建て替えが適う方策がないか伺う。

**総務課長** 東京都においてイエローゾーンとレッドゾーンが指定されている。本村は、急峻な後背地を控えている住宅地が多い。この措置については土砂災害から人命を守るという重要な役割がある事を村民の皆様にご理解いただきたい。集出荷場の敷地の一部はレッドゾーンであり、集出荷場のように常時、人が利用する施設を建てたい場合、選択肢がいくつかある。1つにはレッドゾーンが存在する場所以外の場所を選択する方法。代替地の確保もレッドゾーンも避けることも難しいという事となった場合については急傾斜地の崩落等に伴う土石等が建物等に及ぼす力に対して安全なものとなるような構造で建築する方法が考えられる。土砂災害から生命を守ることを重ねて理解していただきたい。

**稲垣議員** 出荷場としているレッドゾーンの所は裏側の岩盤がせり出していたのを平地にした所、昭和50年代農協設立に伴って出荷場として都の認可を得て建設。現在、建て替えの時期を迎えている。組合員、職員の総意で建て替えが適う方策を。

**村長** レッドゾーン内では建物の強化する事で再建築が可能です。建築主体の小笠原アイランズ農協が建築条件等を満たした建物になるよう方策を工夫していただきたい。

## 杉田 一男議員



### 商工会の問題について

**杉田議員** 商工会の問題点について質問します。商工会の補助金を承認する議員として会運営に支障をきたしているのではという認識から一般質問を通して会員の皆様にも周知する必要性を感じました。5月頃に商工会の役員から相談を受けました。1つ目はパワハラ問題、2つ目は事務局長報酬増の件でした。パワハラ問題については会の服務規程にもパワハラ行為は行わないと明記されています。パワハラ行為が起きた時は会長、理事の皆様で調査委員会等を設置し真偽を正す事が一般的な取組だと思いますが、5カ月間にわたり再三の要請に対しても実施されませんでした。9月7日に理事会が開かれ弁護士に依頼して回答するという報告がなされ、このことにより会長からの直接の説明機会が失われましたのは残念な思いです。事務局長報酬増については、同日開催の理事会で経過についての説明もなく報酬増を認めた理由や会長権限で全て決められ理事会未承認については議題を予算措置の承認という事のみで進められ承認されたと聞いています。今回の質問の主眼は5カ月にわたり会長と理事の皆様の間で膠着状態が続き、今後の会運営に支障をきたし会員の皆様に混乱を招く事の無い様に一歩前に進めるという事では万全ではないと思いますが前進したと思っています。村長からは、島の商工業者のために商工会がしっかりと機能することを願っていると答弁がありました。又この諸課題の今後の取り組みにも注視していきたいと思っています。

## 安藤重行議員



### ①生涯学習について

**安藤議員** 「長寿社会における生涯学習の在り方について」はⅠ.長寿社会の到来と生涯学習、Ⅱ.生涯学習政策の今後の方向性、Ⅲ.生涯学習の具体的方策の意義と役割、地域の支え手としての高齢者、内容の工夫、学習の推進と支援、関係機関の連携の促進、学習成果の活用促進、コーディネート機能の整備、世代間交流の為の高齢者の居場所づくり、行政の役割等まで踏込んだ取組を国が提示している。小笠原村総合計画（後期）の中で様々な対応をしようと思うがどのように取組むのか。

**教育長** 教育基本法では国民一人一人が自己の人格を磨き、豊かな人生を送れるよう生涯あらゆる機会や場所で学習でき、その成果を適切に生かすことができる社会の実現が図られるべきと定められている理念を受け止め、村ニーズの高い社会教育と体育活動に対応している。地域と共にある学校、地域づくりの核としての学校という視点については大いに賛同する。両島小中学校の改築では、地域に開かれた学校を意識し計画している。世代間交流はコロナで中断していたが、徐々に復活させている。生涯学習に対して村役場全体での支援体制づくりは十分には進んでいないが、次年度に向け第4次小笠原村総合計画（後期）の中で教育、文化の検討を進めている。教育課題を精査し議員質問の生涯学習を捉える意見として承る。

### ②村営バスの運営課題について

**安藤議員** 1) おがさわら丸の帰島時間 11 時着に添った運行になっていない。地域住民を一切考えていないのでは。2) 乗り降り自由区間における乗車拒否問題。3) 小港海岸ロータリーへの駐車違反車両がありバスが回れない問題と近地沖津波が 10 分以内で来た時に駐車違反車がある場合人命に関わるのでは。4) 観光地としてのバスのルートが設定されていないのはなぜ。以上のそれぞれの対応は。

**産業観光課長** 1) 週一便程度のおがさわら丸のために毎日の運行を変更する必要があるとは認識していない。2) 乗り降り自由区間であっても止まれないところがある旨案内しているが、この夏でも数件苦情があった。改善に向けて協議したいと考えている。3) 駐車違反は法令違反。違反車があったら運転手が警察に通報し取締まっている。津波等の緊急時に対応する場合は対応方法について運行業者と共有する。4) 需要や収益等を勘案し設定したルートのため新規ルートの予定はない。観光の方の移動はレンタバイク等の活用をお願いしたい。





### 母島の医療について

**宮城議員** 母島診療所は医師1、看護師2、助産師1の体制。入院の場合は夜勤配置のある父島と違い、有事だが現状は？

**医療課長** 通常は不便かけず運営している。母島診療所の入院は年平均5人。2泊以上の場合は父島と協力体制。

**宮城議員** 介護、福祉ともよく連携が取れていて、感謝。入院時の食事の対応は？

**医療課長** 給食施設がないので、ご家族の協力かレトルト食品を提供。特別食も準備。

**宮城議員** できる限りやってくれている。今後も高齢者向けなど検討対処してほしい。

**宮城議員** 歯科医の上京時は休診だが、代診や父母歯科医の相互支援など考えられないか？

**医療課長** 現状は代診なし。医科で痛み止め処方への対応。父母の歯科医の相互支援などは検討していく。

### ペットボトルごみの軽減について

**宮城議員** 入港配達、ゴミ回収、搬出の仕事をしていて、ペットごみが多い。村では年27tのペットを内地へ送っている。島で1日に74kg、500mlが3200個捨てられている。現状は？

**環境課長** 父で週2、母で週1回収。その後、島外搬出。再商品化、トレーなどに再利用。法に基づき、内地への運搬、処理コスト村はゼロ。回収量は非常に多い認識。

**宮城議員** 限りある資源、コスト、CO2を考えると消費量を軽減が重要。運搬の負担軽減、適正なりサイクル推進は重要と思うが？

**環境課長** 減量は重要。個人が減らすのはすぐには難しい。潰して出すよう周知。キャッ

プ外し、洗うことで適正なりサイクル推進となり、環境負荷の少ない社会になる。

**宮城議員** 実際、潰れてないものが多い。周知徹底を希望。ペット水を買わない為に、湧き水を貰ったり、ポット型浄水器を付けている。貰ったペットを何度も使用。村長、ゼロカーボンシティ宣言の村として目標を設定、成果を公表しては？

**村長** ゼロカーボンシティ宣言、温暖化対策計画を策定。マイボトルなど具体的な取り組み。目標設定が必要かどうか検討していく。

### 島の文化財産の管理と有効活用について

**宮城議員** 1983年に父島で見付かった島の考古学調査のきっかけになった丸ノミ石斧があるが、現物は？

**教育長** 問い合わせ時、所蔵リストには未掲載。保管場所を捜索したら発見。

**宮城議員** 発見者も歓喜。島の先史時代を紐解く重要な文化財と思うが、管理は？

**教育長** 所蔵品リストに記録、金庫に保管。今後は調査結果などを精査し、対応。

**宮城議員** 村保管の歴史文化の映像でアナログ媒体の物は？あるならデジタル保存化が必要と思うが？

**教育課長** 当時の記録媒体のまま保管。カセット、VHSなど120点。デジタルデータ化は喫緊の課題と考える。

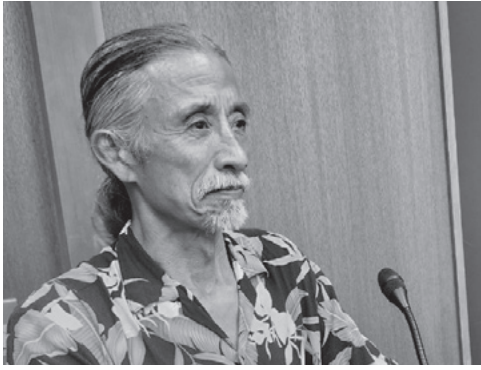
**宮城議員** 映像資料などをケーブルTVやYoutubeなどで配信し、活用できればと思うが？

**教育課長** まずは内容の確認もできていないので、デジタルデータ化を進め、資料の内容を精査する。

**宮城議員** 村長、島の文化の保存の難しさを感じているが、どう考えるか？

**村長** 文化財的なもの以外も含め、過去の経緯を大事にすべき。記録をしっかりと後世に残せるようにするのは大事。教育課長答弁にあったことについては早速考えてみたい。

## 清水良一議員



### 扇浦交流センターの管理と活用方法

清水議員 扇浦交流センターは1, 島民、来島者の交流の場であり地域コミュニティの拠点となる場所、2, 扇浦地区の避難所、防災の拠点となる場所、3, 太陽光発電の新しい取り組みとして独立系を取り入れゼロカーボンシティのモデルとなる場所、という三つの役割がある。また、限界避難距離は1.5 km から2km と一般に言われているが前回台風では雨漏りの恐れから避難所として開設されず半分のスペースが非常用の水の置き場となっている。又太陽光発電も8年間有効に使われていない。

- ①避難者の住居と避難所の距離についての村の見解は？
- ②前回台風時の避難者数とエリア、扇浦交流センターでの避難実績
- ③修理計画と防災倉庫の建設予定は？
- ④太陽光発電の有効利用の方策は？
- ⑤ゼロカーボンシティ計画でのこの施設の活用は？ゼロエミ住宅のモデルに整備できないか？
- ⑥島民子供たちが気軽に使える終日開館している施設にできないか
- ⑦こういう施設を地域の自治会が管理するのがベターと考えるが、村として自治会設立へのサポートはあるか

### 総務課長

- ①避難所と住居の距離について特に決まった基準はない。
- ②前回8月の台風7号では福祉センターを避難所として避難者数は、最大時で父島47名 父島避難者の居住地別の内訳は、西町・東町地区15名、奥村地区26名、

扇浦・小曲地区6名。扇浦交流センターの避難実績は平成30年9月12号4名、令和元年9月15号0名、令和元年10月19号5名、令和3年10月20号13名。

- ③防災備蓄倉庫は本年度中に再整備をする。
- ④バッテリーへの充電以外は売電の申請中。審査終了後認定され次第、電力会電力会社への接続を開始する予定。

### 村民課長

- ③本体の屋根について修理は終了、その後雨漏りについては確認されておらず、現在修理補強計画はない。
- ⑥職員が常駐していないので今後も同様の利用形態で利用していく。
- ⑦今後も村直営で管理していく予定。

### 環境課長

- ⑤現時点では考えていない。

### 財政課長

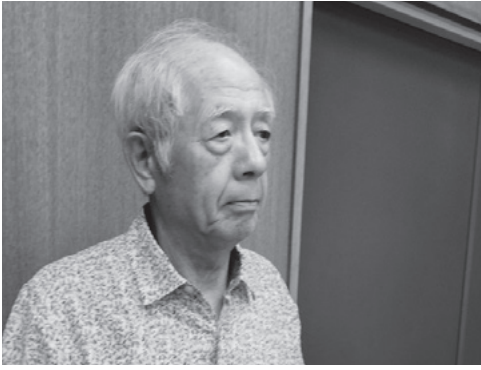
- ⑦自治会設立のための村からの支援はない。

村長 交流センターとして様々な活用してきた。老朽化と木造ということと雨漏り等の問題もあり今後10年は現状のまま避難所としても使っていきたいがどこかの時点でこの建物も維持しつつ新しい施設を検討し管理運営を新たに考えていきたい。





## 片股敬昌議員



### ふるさと納税とバス事業について

**片股議員** 9年前に質問した当時より寄付額が大幅に増えている。時代の要請で村職員の業務も質、量ともに増えている。現状は。  
**財政課長** 財政係4名のうち1名が他の業務と兼務しながら行っている。寄付に係る対応は多岐にわたり、寄付の増加とともに担当職員の負担は今後大きくなっていく。

**片股議員** ふるさと納税は税金の還付、控除が受けられる他に返礼品が受けられる。現在どのようなものが返礼品になっているのか。

**財政課長** ふるさと感謝券以外ではパッションフルーツ、ラム酒、パッションリキュール、文房具、化粧品、体験などが登録されている。

**片股議員** ふるさと納税額はどの位伸びてきているのか。

**財政課長** 開始当初は軽微な返礼品だったため、令和元年度までは年平均200万円ほどでしたが令和2年度以降は1,000万円を超え、令和4年度は1,600万円を超える寄付をいただいている。

**片股議員** 他の自治体ではゴルフ場の平日ワンプレー、ホテル利用券、お食事券などがある。小笠原にやってきて利便性の高いものは村内で何にでも利用できる券が最も喜ばれ、かつ村全体の経済効果も期待できる。

**財政課長** 令和2年度から村内経済に還元される目的で、来島を予定している寄付者へ「ふるさと感謝券」を新たに返礼品としており、感謝券の占める割合は約3割。令和2年度以降毎年増額している。

**片股議員** ふるさと納税をしてくれた観光客には返礼品の他にプラスのサービスとして村営バスのフリーのサービスを付けてあげても

良いのでは。

**財政課長** 寄付者に特典を提供する場合はその特典も返礼品として含まれると、総務省から規定されており、返礼品にあわせて特典として付けることはできない。

**片股議員** 都内では企業の協賛を得て、東京ベイシャトル、丸の内シャトル、メトロリンク日本橋などの路線が全て無料になり、地元の活性化につながっている。将来的に村民、観光客を問わず、全て無料にする道を。

**産業観光課長** コロナ前は400万円弱の収入があった。無料化がそれに見合うメリットがあるのか十分な検討が必要。バスの中の広告収入についても検討したい。

**片股議員** 風評被害に苦しむ福島、東北に対しふるさと納税で応援していこう。

## 議長出張報告



出張日	出張用務
6月30日～7月1日	岩手県平泉町世界遺産交流会出席
7月4日	第101回小笠原振興開発審議会出席
7月6日～8日	朝日健太郎参議院議員来島随行
7月14日	小笠原観光局事業報告会出席
7月18日	自由民主党離島振興委員会小笠原小委員会
7月19日	小笠原航空路協議会出席
7月26日	硫黄島訪島事業出席
7月29日～30日	愛らんどリーグ2023フットサル大会出席
7月31日	要望活動（総務省、防衛省）村長同行
8月3日	自由民主党小笠原を応援する会出席
8月15日	戦没者追悼式典（父島）出席
9月18日	敬老大会（父島）出席
9月23日	母島小中学校開校50周年記念式典出席
10月5日	市区町村長及び市町村議会議長総務大臣表彰式



## 令和5年第3回定例会においてこんなことが決まりました

開会日 9月13日、14日、29日

- 小笠原村災害復旧・復興特別交付金事業基金条例を廃止する条例
- 小笠原村簡易水道事業の設置等に関する条例
- 小笠原村生活排水処理事業の設置等に関する条例
- 令和5年度小笠原村一般会計補正予算(第4号)
- 令和5年度小笠原村介護保険(保険事業勘定)特別会計補正予算(第1号)
- 令和5年度小笠原村国民健康保険特別会計補正予算(第1号)
- 小笠原村父島辺地及び母島辺地にかかる公共的施設の総合整備計画の変更について(令和3年度～令和5年度)
- 母島保育施設新築工事(機械設備)請負契約の締結



### 令和5年度市区町村長及び市町村議会議員総務大臣表彰決定

池田議長は、令和5年度市区町村長及び市町村議会議員総務大臣表彰の決定を受け、10月5日(木)全国町村会館にて開催された表彰式に出席いたしました。

この表彰は、市町村長として通算20年以上、地方議会議員として通算12年以上在職し、地方自治の発展に功労があったと認められる者が基準となり、令和5年度の表彰者は、41名(全国で市町村長16名、市長村議長25名)が表彰決定を受けています。

池田議長は、議長通算13年目を迎え、議長として、議員との調整、連携を図り、円滑な議会運営に貢献するとともに、村民、観光客の安全を守るため、夜間における救急患者搬送の実現に寄与されたこと。また、村民としても郷土芸能である「南洋踊り」の歌い手として南洋踊り保存活動に寄与された功績が評価され、表彰が決定いたしました。



## 小笠原諸島世界自然遺産

関連する主な会議のスケジュール、愛玩動物の適正な飼養及び管理に関する条例（ペット条例）、村民向け普及啓発事業、世界自然遺産価値の再評価、平島ネズミ対策について報告、質疑がありました。

### ◎村民向け普及啓発事業

平島視察会 7月17日（月）実施 参加者：24名  
オガグワの森 土の生き物観察会

8月26日（土）実施 参加者：43名  
ははじま丸クルーズ母島列島編

9月10日（日）実施 参加者：93名  
講演会「小笠原諸島誕生の秘密」

9月10日（日）実施 参加者：101名

**【問】** 平島ネズミ対策の定点監察は継続するのか。  
（安藤）

**【答】** 継続的なモニタリングの必要性は認識している。管理機関全体でどこが担うかは検討が必要。（環境課長）

**【問】** 登録時の地質地形には、西ノ島は含まれていなかったが、その後の西ノ島の価値を含めての再検討なのか。（清水）

**【答】** 西ノ島は追加的価値であると認識するが、地質地形については、もともと価値があると認識している。（環境課長）

## 住宅政策

新たな東京都小笠原住宅（父島清瀬都住・母島沖村都住）の整備、母島空き家募集の再開、住宅モデル事業、父島奥村分譲地・母島静沢分譲地について報告、質疑がありました。

**【問】** 母島沖村都住空き住居のうち、入居可能と考える部屋が2戸ある。村から都に対し、空き住居募集再開の要望は出来ないか。（宮城）

**【答】** 雨漏りがあること。床の貼り換え箇所が広範囲であること等から募集再開は困難であると東京都から回答。（企画政策室長）

**【問】** 都住の過去5年程度の空き部屋数、応募世帯数及び家族世帯で民家住宅の入居数の把握をしたい。（宮城）

**【答】** 東京都との調整、調査に要することから次の委員会で報告。（企画政策室長）

宮城委員：世帯用民間住宅建設に対しての建設費補助、利子補給等政策を検討いただきたい。

**【問】** 父島の都住建て替えの際、現在の二見台都住にあるシルバーピア同様の住居の整備は予定されているのか。（安藤）

**【答】** 現在計画にないと東京都より回答を受けている。（企画政策室長）

## 令和6年度小笠原諸島振興開発事業概算要求

小笠原諸島振興開発事業の村が実施する事業にかかる概算要求の内容、金額について、確定額の報告がありました。

令和6年度概算要求額（東京都事業分含む）

事業費 2,097,813 千円（うち、国費 1,244,047 千円）

令和6年度概算要求額（小笠原村事業分）

事業費 1,423,823 千円（うち、国費 896,171 千円）

## 南鳥島における射撃訓練計画

南鳥島における射撃訓練を令和8年度以降で計画していると報告がありました。

## 行政視察

友好町村である山梨県南アルプス市へ行政視察することが承認されました。

## その他

高齢者入所施設建設について稲垣委員より提案がありました。

**【問】** 住み慣れた母島で住み続けたい。今建設中の児童福祉施設にグループホームなど併設する変更はできないか。（稲垣）

**【答】** 事業計画に基づき建築計画手続きを行っているため、変更は出来ない。（母島支所長）

**【問】** 母島に高齢者入所施設を希望する声が多い。島を離れるのではなく、小規模でも母島島内に入所施設を検討してもらいたい。（稲垣）

**【答】** 母島に高齢者施設を整備する予定はありません。村としては、父島で老朽化した診療所建替の際、医療と介護の諸課題を整理し、医療と介護を併設した複合型施設を整備。本村全体で在宅サービスを推進しております。（村民課長）

**【問】** 現在、独居、終末期を迎える高齢者への対応が求められている。24時間体制での訪問介護、訪問看護の仕組みづくりが必要。地域としてどのように対応していくか検討していただきたい。（宮城）

**【答】** 現諸課題を整理する中で独居、終末期を迎える高齢者への喫緊の課題であることは認識している。引き続き、高齢者施策を検討していく。（村民課長）

令和5年6月に本委員会設置以降に関する動きについて報告がありました。

## 遺骨収集帰還事業について

滑走路地区調査については年度内通じて実施。遺骨収集は4回実施する予定。

第1回目：7月26日～8月9日実施 収容柱数17柱

【問】 滑走路地区の調査をしているが、遺骨収集の実施はいつからか。(安藤)

【答】 調査の結果、新たに未探索壕が見つまっているが壕内の温度が非常に高いこと。滑走を運用しながらの実施方法の検討等を計画中のため、未決定。(総務課長)

## 訓練について

HRS訓練、潜水訓練、LCAC（エアークッション艇）訓練、掃海艇訓練、米海兵隊による訓練、日米合同訓練について

【問】 米海兵隊による高機動ロケット砲（ハイマース）訓練はどのような訓練なのか。(清水)

【答】 ロケット砲の発射訓練ではなく、車両の展開作業、他地域との通信訓練。(総務課長)

## その他

硫黄島訪島事業、硫黄島3島クルーズ洋上慰霊祭等について

【問】 訪島事業について応募者全員参加できたのか。(清水)

【答】 参加人数制限があり、応募者全員参加は出来ませんでした。(総務課長)

【問】 旧島民が自分の生活の跡を探したりすることが出来たのか。(安藤)

【答】 新たに現地自衛隊員が見つけた生活の跡などの案内を致しました。(総務課長)

【問】 重機をどのように管理しているか。(杉田)

【答】 可動部分は、カバー保護。キャabinは、ブルーシートで覆うなど対応。(総務課長)

杉田委員長：ブルーシートではなく、メーカーの保護カバーでの対応を検討いただきたい。その後の対応について次回委員会で報告いただきたい。

# 小笠原航空路開設推進特別委員会 9月14日

令和4年6月に本委員会設置以降に関する動きについて及び第12回小笠原航空路協議会について報告がありました。

## 第12回小笠原航空路協議会 開催：7月19日（水）

- ・小笠原航空路に係る令和4年度調査結果
- ・世界遺産の影響評価ガイダンスの概要
- ・小笠原航空路に係る令和5年度調査事項

小笠原航空路協議会の議事内容・配布資料は、東京都総務局行政部ホームページ

<https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/05gyousei/06koukuuro.html>

こちらをご覧ください。

これまでの資料もこちらからご覧になれます。



# 広報誌編集研修レポート

参加議員：安藤副議長、杉田議員、清水議員、平野議員、宮城議員

## 【変えるなら？今でしょ！議会だより】

「書くことが目的ではなく、伝えることが目的」

「空白は無駄ではなく、意味がある」

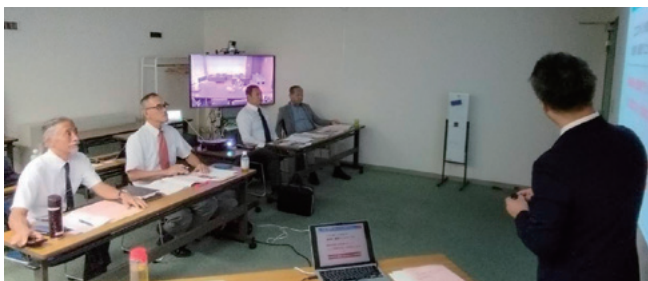
「関係人口を増やすことの有効性」

目からウロコだらけな研修を受けてきました。

講義いただいた講師から放たれるエッセンスは、ギョングンと僕の心を鷲掴みにしていきました。

春からより読みやすい、伝わる紙面作りを工夫してきました。どうすれば議会の雰囲気や伝えつつ、興味が湧くか試行錯誤してきました。

そして、今回の研修でどう変わっていかばいいか



明確に見えてきたのです。

見出しを見ただけで内容がわかる工夫や、知りたい情報に飛べる仕組み、写真やイラストを毎ページに含ませる。アンケートや読者モニターの実施、更には編集やイラスト記事を島内にお願いするなど素敵なエッセンスの宝庫でした。

この研修の成果を活かした紙面作りをしていこうと思っています。

今後の議会だよりに乞うご期待ください。

宮城ジャイアン



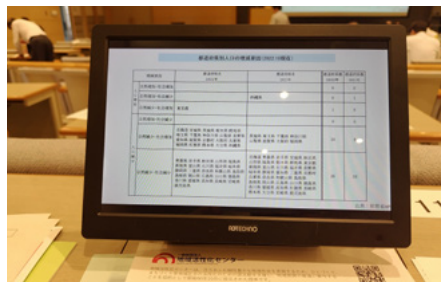
# 全国市町村国際文化研修所研修レポート

参加議員：稲垣議員、片股議員

武庫川女子大学の金崎健太郎教授は人口減少社会における行政の現状と課題について話された。これからは地方公共団体相互間の連携、協力が必要。意見交換した鳥取県の町議会では具体的に近隣9つの市町村が共同でゴミの処分場をつくり、それにかかる費用を全体で負担し運用しているとの事。東京都でも医療ベッドが足りなくなってくれば、これからは千葉、埼玉、茨城などとの調整をし、補完関係でこれからの時代を乗り越えて行くしかない。そのためこれからの職員に求められるのはそれぞれの自治体をつないでいくことが出来る能力を持った公務員。次に現職の寝屋川市広瀬市長の話があった。この講義は受講生にとって最もインパクトを与えた。寝屋川市はかつて道路が狭い、公園が少ない、住環境が悪いなど、とにかくあらゆる面でイメージが悪い街でもはや開発余地のない所であったが、今や多くの自治体が寝屋川市の視察に訪れるようになったという。広瀬市長の考えは次のようなものだ。苦手な所で勝負をしない。若い人たちにこの街を選んでもらう取り組み、子供たちの

間でいじめのない、充実した教育を受けてもらう対策に真剣に取り組んだ。それが評価された。公共施設は一見無駄のように見えるがそうではない。それはメディアと同じで良い評価は勝手にどんどん拡散されて行く。開発余地がないと思われていた寝屋川市が4年でここまでやって来れた。持続可能な競争力を文化として残していくことが大切。リーダーによってここまで街は変わるものと学ばされた。

片股敬昌



## 令和5年第4回定例会会議日程表（予定）

月日	開始時間	会議名	内容
12月13日（水）	午前10時	本会議	会期の決定、一般質問等
12月14日（木）	午前9時	総務委員会	
	午前11時	硫黄島調査特別委員会	
	午後2時	小笠原航空路開設推進特別委員会	
	午後3時	本会議	議案審議

※現時点での会議予定です。

会議日程については変更がある場合がありますのでご容赦ください。

### ● 映像の配信について

TV 11チャンネルで中継放送、Youtube でライブ配信を行います。

9月議会からアーカイブ配信をしています。

いつでも議会録画中継をご覧になれます！

【小笠原村公式チャンネル】

URL：<https://www.youtube.com/@boninlive5930/streams>



## 編集後記

新型コロナウイルスの5類感染症移行後の夏が過ぎ、9月には学生の団体も多く訪れ、小笠原の観光業もようやく賑わいを取り戻し始めたように感じます。硫黄島に関しても、遺骨収集事業の余席を活用した航空機による硫黄島墓参が開始され、村民の皆様にも硫黄島に上陸いただける機会がようやく再来しました。また、来年度には沖ノ鳥島クルーズが計画されており、楽しみにしておられる方も多いと思います。

コロナ禍で沈んだ雰囲気も払拭されていき、村民の皆さんが明るい未来を感じられるような議会運営を行っていきたいと考えております。村議会でも議会のアーカイブ化により、いつでも村議会の様子を視聴する事が可能となりました。多くの方に村議会に興味を持っていただき、もっと良くしたい、変えてほしい、そういった声をお届けいただきたいと思います。 平野 悠介

● 議会だより編集委員

安藤重行 清水良一 平野悠介 宮城ジャイアン

お問い合わせ先 小笠原村議会事務局 電話 2-3118 FAX 2-3208 メール [gikai@vill.ogasawara.tokyo.jp](mailto:gikai@vill.ogasawara.tokyo.jp)